

キエーロの手引き



亀山市総合環境センター 環境課廃棄物対策グループ
令和4年7月

キエーロについて

土の中にいる微生物の力を利用して生ごみを分解し消滅させる生ごみ消滅容器。
微生物の力を使うので、分解には、温度と水、空気が必要です。

【特徴】

- ・ 土の中にいる微生物が生ごみを分解するので、土が増えない。
- ・ 投入する生ごみの水切りが不要。
- ・ 食用油の廃油、ラーメンの残り汁なども投入可能。
- ・ 正しく使うことで、虫や臭いが発生しにくい。
- ・ 使い続けるための経費は、破損時の修理代程度。
- ・ 生ごみが分解されるので、何度でも使用可能。

【コンポストとの違い】

	キエーロ	コンポスト
処理方法	土の中にいる、微生物により生ごみを分解させる。	微生物により、生ごみや落ち葉などを発酵させ、堆肥化させる。
準備するもの	入れ物と土	入れ物と発酵を促進させる材料
入れられるもの	生ごみ（水気OK）	生ごみ（水気NG）、落葉
使い方	穴を掘って生ごみを入れよく混ぜて土を被せる。 生ごみを埋める穴を変えていく。	生ごみは水分をよくきって入れる。 いっぱいになったら熟成させる。
メリット	<ul style="list-style-type: none">・ ランニングコストが、かからない。・ （きちんと使えば）臭いや虫が発生しない・ 土の量が増えないので、いつまでも使用可能	<ul style="list-style-type: none">・ 色々なタイプがあり、使う場所等によって選択肢が豊富。・ 落ち葉も分解できる。・ 堆肥は家庭菜園などに使用可能
デメリット	<ul style="list-style-type: none">・ 大きい・ 家の中に置けない	<ul style="list-style-type: none">・ 虫や臭いが発生しやすい

キエー口（生ごみ消滅容器）の使用手順

●キエー口を置く場所を決める。

日当たりが良く、風通しの良い場所がおすすめ。

（日陰や風通しの悪い場所では、分解が遅かったり、虫が発生しやすい。）

●キエー口を準備する。

基本的には長方形の木箱で、大きさは、処理したい生ごみ量に合わせる。

直接雨が入らないよう屋根（フタ）を付ける。太陽の光を通す透明のものがよい。

風が通るように、前と後ろの面とで、10cmほどの高低差をつけ、フタに傾斜をつける。



種類	メリット	デメリット
土置きタイプ （底がない）	処理能力が高く、余分な水分を地面が吸い取ってくれるため、使い勝手がよい。	水はけがよい地面が必要。
プランタータイプ （底がある）	ベランダやコンクリートの上で使える。	底があるので、水分量の調整が必要。

【分解量の目安】

大きさ（cm）	対象	生ごみ量
幅 85×奥行 45×高さ 80	一軒家のファミリー	1回 500g を毎日処理可能
幅 60×奥行 40×高さ 60	少人数の家族	1回 500g の生ごみを 2～3 日に 1 回 処理可能

※分解できる生ごみ量は、キエー口の土の量に比例します。

たくさんの土で少しの生ごみは、はやく分解できるが、すこしの土で生ごみをたくさんいれると、臭いや虫が発生しやすくなる。

●そのほか用意するもの

土	土は、畑の土やホームセンターなどで購入できる黒土など。砂や粘土質以外のものなら OK です。 量はキエー口の大きさによる。（キエー口の大きさの 8 分目）
スコップ	剣先スコップがおすすめ。
蓋つきの容器	台所で生ごみをためるのに使用。

●キエー口の使い方の一例



①キエー口を設置します。

虫や臭いが発生しないためには、表面の土が乾いていることが重要です。日当たりと水はけ、風通しの良い場所を選びましょう。

キエー口に土を入れます。
(容器の8分目ぐらい)



②土に穴を掘ります。

20cm程の深さの穴を掘る。

20cm程の深さが最もバクテリアの働きが良い場所になります。

表面の乾いている土は、生ごみを入れた後に、5cm程度土を被せるために使うため、横に取っておきます。



③穴に生ごみを入れます。

生ごみは、ふた付きの密閉容器にためておくと便利。

2～3日ためてから入れると、分解がはやい。毎日処理するのも可能。腐りやすいものは、早めに処理したほうが臭いが気になりません。

時間がある時は、野菜などは細かくしておくと、分解がはやい。



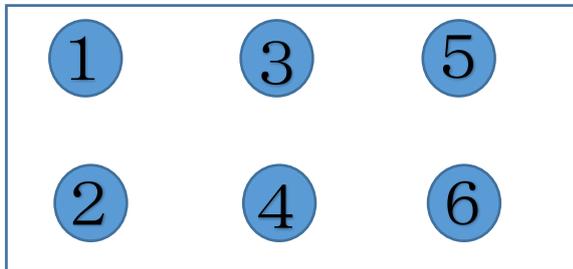
④生ごみを入れて細かく砕く。

スコップでザクザクと細かく砕きながら、土と見分けがつかなくなるくらいまで、よく混ぜます。生ごみを細かくして土をよく混ぜ合わせることで、空気もは入り、生ごみを分解しやすくなり、虫も発生しにくくなります。



⑤最後に、最初に掘った表面の乾いている土を被せます。

表面の土が乾いていることで、臭いを防止し、虫の発生を防ぎます。
生ごみが表面に出ていると、臭いや虫の原因になります。



投入順のイメージ図

⑥繰り返し利用する。

埋める場所を変えることで何度も使えます。

(例)

①→②→③→④→⑤→⑥→①・・・

の順で繰り返す。

一巡するころには、生ごみが消滅しています。

キエーロの好きなもの・嫌いなもの

基本的に人間が食べるものは、分解されますが、キエーロにも好き嫌いがあります。

※好きなものほど分解がはやく、嫌いなものは分解が遅くなります。

好きなもの (分解が早い)	傷んだ野菜や果物、火を通した野菜、パン、麺類、魚の内臓・煮汁、生肉・脂身、ラーメン、味噌汁、カレーなどの残り物、傷んだ弁当や残飯、廃食油、お菓子、ジャム、バター、残った揚げ物、ジュース・お酒、もみがら、米ぬか
	刻んだ野菜くず、じゃがいもなどの野菜の皮、りんごなどの果物の皮、火を通した魚や肉、パンやご飯、麺類、お茶がら、・コーヒーかす、海老の殻
苦手なもの (分解が遅い)	かんきつ類の皮、キャベツなど野菜の芯、トウモロコシの芯、たまねぎの皮、枝豆のさや、スイカの皮、根菜類、ブロッコリーの太い芯、昆布、魚の大きな頭や小骨、卵の殻、カニの殻
嫌いなもの (分解しない)	貝殻、鳥の骨、タケノコやとうもろこしの皮、栗の皮、カボチャ、梅干し、アボカド、ゴーヤ、桃などの種、魚の大きな骨

失敗しないためのポイント

①大きなものは小さくする。

小さく細かいものや柔らかいものほど分解が早くなるため、大きいものはなるべく小さく刻みます。

②生ごみと土をよく混ぜる。

生ごみが固まっていると分解が進みにくくなります。

生ごみにまんべんなく土が混ざるようによくかき混ぜてください。

たまに、底の方から掘り返し、全体的に空気が入るように混ぜると効果的です。

③土の水分量に気を付ける。

微生物が生ごみの分解を進めるには、適度な水分が必要です。生ごみを入れるときは、水を切らずにそのまま入れてください。廃食油も微生物の栄養となりますので、分解を早めるため時々入れると効果的です。

ただし、プランタータイプで底があるものは、底に水分が残りやすいので、水分が多すぎると失敗する原因となります。

④乾いた土で覆う。

最後に生ごみと混ざった湿った土を完全に覆うように乾いた土を被せます。表面が乾いていないと生ごみの臭いが漏れ、臭いや虫の発生の原因となります。

⑤季節によって、入れ方を変える。

生ごみの分解は、気温が高くなる夏場は早く（5日～7日）、冬場は遅く（2週間程度）なります。

気温の低い冬は、微生物の活動が鈍くなり分解が遅くなります。入れる生ごみを普段より細かくし、少量にしましょう。

⑥継続することが大事。

生ごみの分解中は土の温度が高くなりますが、埋めるのをやめると土の温度は下がってしまいます。少しずつでも継続的に生ごみを埋めて土中の温度を下げないことが順調に分解を続けるポイントです。

こんなときは・・・

トラブル	原因	対策
虫が発生した	生ごみが表面に出いていませんか？	虫が寄ってくる臭いの原因になります。深さ20cm以上のところに埋め直しましょう。
	土の表面が湿っていませんか？	中の生ごみの臭いが外に漏れやすくなります。乾いた土をかぶせるか、表面が乾くまで生ごみの投入を控え、空気を混ぜながら生ごみを分解しきってしまいましょう。
	生ごみが土と混ざらずに塊になっていませんか？	土と混ぜ合わせなければ生ごみの分解が進まず、臭いの原因となって、成虫が卵を産みにやってきます。埋める際にはよく土と生ごみを混ぜましょう。
	枯れ葉などを入れてませんか？	枯れ葉には虫の卵がついていることがあり、栄養たっぷりのキエー口の土の中でふ化して大量発生する可能性があるので注意しましょう。
		虫がどうしても気になる場合は、熱湯や殺虫剤をかけて駆除できます。熱湯や殺虫剤をかけても微生物には影響しません。
臭いがする。 (掘り起こすと…)	中で土が固まっていませんか？	空気が不足しています。空気を入れるように混ぜて分解を進めてあげましょう。
	中が水分でどろどろになっていませんか？	水分が多すぎです。乾いた土と混ぜ合わせて水気を緩和し、生ごみが分解されるまで待ちましょう。
	生ごみが多すぎませんか？	生ごみを入れすぎると分解が追い付かなくなり、臭いや虫の原因となります。分解しやすいものだけにするなど、投入日や量を減らしましょう。
	魚の内臓など臭いの強いごみを入れましたか？	分解途中は掘り起こすと臭いがします。分解されるまで掘り起こさないようにしましょう。
臭いがする。 (表面が…)	土の表面が湿っていませんか？	中の生ごみの臭いが外に漏れやすくなります。乾いた土をかぶせるか、表面が乾くまで

		生ごみの投入を控え、空気を混ぜながら、生ごみを分解しきってしまいましょう。
	生ごみが浅いところに埋まっていますか？	少し深めに埋め直すか、上に乾いた土をかぶせましょう。
生ごみが消えない	生ごみと土をよく混ぜていますか？	穴に生ごみを入れ、土をかぶせるだけでは分解が進まず、虫や臭いの原因にもなります。生ごみと土をよく混ぜ合わせることで分解しやくすくなるので、生ごみを入れたら、土と一緒にザクザクしてから土をかぶせてください。
	使い始めて間もないですか？	初めはバクテリアが少ないので、分解に時間がかかりますが、生ごみの投入を続けるうちに分解が進むようになります。
	野菜が残っていることが多いですか？	野菜（特に皮や芯）は分解に時間がかかりますが、いずれ分解されます。次の生ごみを一緒に埋めても大丈夫です。乾燥した野菜くずが多い時は、適量の水や廃食油を加えると分解しやすくなります。（水は入れすぎないように注意してください。）
	中がどろどろで生ごみが全体的に残ってますか？	水分が多すぎです。乾いた土と混ぜ合わせて水気を緩和し、生ごみが分解されるまで待ちましょう。
	底の方で土と一緒に固くなっていますか？	空気が不足しています。空気を入れるように混ぜて分解を進めてあげましょう。
	白っぽい土の塊になっていますか？	白っぽいカビのようなものは分解が進んでいることを表しています。スコップで塊を砕いておけば分解されるので、次の生ごみも一緒に埋めて問題ありません。
	気温が下がってきていませんか？	冬場など気温が低い時期は微生物が活性化していないため、分解に時間がかかります。活性化させるためには、生ごみを入れるときに米ぬかや廃食油（栄養）を一緒に入れたり（※入れすぎると逆効果）、こまめに生ごみと土を混ぜ空気を含ませると、分解が早まります。

ご質問等がありましたら、お気軽にお問い合わせください。

(連絡先：亀山市総合環境センター 環境課廃棄物対策グループ ☎82-8081)